

地域活性化という「遊び」②

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

10月に
2週連続でやってきた台風。
ここ三和町は雨による大きな被害は
出なかったものの
地元の人に親しまれていた
ポプラの大木が倒れました。



ポプラが倒れた現場。旧通学路を塞ぐほどの大木です。
大変な状況でした。

3年前、惜しまれながら140年と
いう歴史にピリオドを打つ形で
廃校になってしまった川合小学校。
倒れてしまったポプラは
その校門のところにあり
樹齢は不明ですが
聞くところによると
今年90歳になる近所のおばあちゃん
が小学生の頃
その木に登って遊んでいたというこ
とですので、100年は
ゆうに超えていると思われま
すが
木が倒れた次の日
地元の方がその状況を
フェイスブックで投稿されてお
り
現場の状況が危険なため
早急に撤去されるということを知
りました。

撤去とは勿体無い。
真冬に近いこともあり
「ものすごい量の薪になる」
というなんとも私利私慾にまみれた
アイデアですが
オール電化が進む世の中とは逆に
日常的に調理や暖房含め
いろいろなこと木と関わりが多い
暮らしをしている我が家としては
大量の雑木はつい大量の石油の
ように見えてしまうのです。
しかし落ち着いて考えてみると
この地に生まれ
この小学校に通った人たちは
毎日のように
この校門をくぐってきたわけで
この木に登って遊んだりした時には

台風で倒れてしまった
ポプラの大木で遊ぶ

危ないことをして先生に叱られたり
この木を知らない人は
一人もいないはず。
木の方も
ここを通った子供たちの顔や
この地で起こったいろいろなことを
ずっと見てきたことでしょう。
そんな木をただ薪に
ましてやお金をかけてゴミにするな
んとんでもない。
何ができるかはわからないけど
とりあえずその木を残したい。
次の瞬間僕の手は
携帯電話に伸びていました。
現場ではもう既に
伐採業者と教育委員会の方が
処理方法などを打ち合わせておられ
るという差し迫った状況でしたが
僕が連絡した地元の方が即現場へ急
行してください
とりあえず数日の猶予をいただき
伐採は早急に



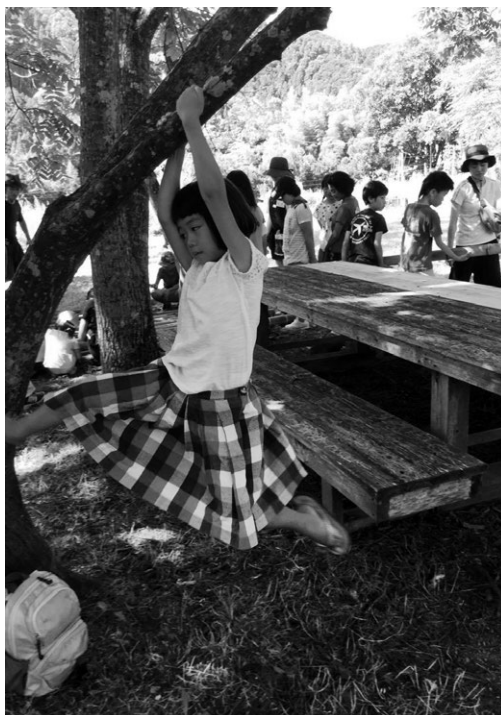
伐採中、木の運び出しは子供たちにも手伝ってもらいました。ちなみに名簿順でいうと、この小学校最後の卒業証書をいただいたのは我が家の次男坊でした。



オブジェになるであろう巨木。1年どころか10年遊べそうです。



伐採中、子供たちはプロの仕事に興味津々でした。



みわ・ダッシュ村にあるこの木もこの子が90歳になったら巨木になるんでしょうね。

業者にしていたいただきますがその後の処理については地元で利用したいのでこちらが指定した大きさに切っただけよう
交渉をしてくださいました。ちょうど地域活性化の拠点として廃校後の小学校の利用についてもいろいろ意見が出ていたり先月も地元の祭りを
小学校で行なうなどしていたためタイミングとしてはバッチリ。まさに災い転じて福となりました。

大きなものはそのまま展示したり
枝や幹の部分は乾燥後コースターやお皿の形まで切っておいて
来年のお祭りの時に
参加者の方々に磨いてもらうなど

いろいろ地元で考えてみたいと思います。
相変わらず人口は減っていく一方で村の共同作業などの負担は増えていく一方。
イベントが増えるということは村役が増えるということに直結しますので
アイデアはあってもなかなか言い出しにくいところもあるのですが
今回は「考えようによってはこれで一年遊べるからね、やってみようや！」と
即動いてくださった地元の方が一人おられて大変助かりました。
遊びというのは子供だけではなく大人にとっても重要なキーワードになるのですね。
「さあ、遊ぶぞ！」